

向島図書館 teens だより



京都市向島図書館

図書館おすすめの本

★『悲劇の少女アンネ』[新版]

「アンネの日記」の筆者・感動の生涯

289

シュナーベル／著 久米 稔／編訳
偕成社



この本の主人公は、世界各国で翻訳された『アンネの日記』の著者、アンネ＝フランクです。彼女の生涯を伝えるノンフィクションのこの作品を読むと、当時の時代背景や彼女が置かれていた環境をより詳しく知ることができます。

★『由来からわかる

日本と世界の行事図鑑』

38

山田 慎也／監修
スタジオタッククリエイティブ



グローバル化が広がる現代に、改めて日本の行事を知り、そして世界の行事に触れることのできる1冊です。この本では、行事を由来から深く知ることができます。また、写真も多く視覚から直接的に学びを深められます。

京都市図書館で本を借りよう！

京都市図書館全館共通の「図書館カード」がいます。カードを持っていない人は、カウンターでお申し込みください。お名前とご住所を確認できるもの（生徒手帳など）が必要です。宇治市と大津市にお住まいの方もカードを作ることができます。

資料は一人10点まで2週間借りることができます。(CD・DVDは内2点まで)

貸出中の本や京都市の他の図書館にある本・雑誌・CD・DVDは、予約して取り寄せて借りることができます。

パスワードを登録すると、図書館内のOPAC(検索機)からだけでなく、ご自宅のパソコンや携帯電話・スマートフォンから予約や貸出期間の延長(1回のみ)の手続きをすることができます。パスワードを登録されたい場合は、カードをご持参の上、カウンターでお声かけ下さい。

★『建設中。』

510

勝田 尚哉／写真・文
グラフィック社



あなたがいつか訪れるかもしれない高層ビルの地下や最上階、地下トンネルや海上滑走路などになる前の、むき出しの鉄骨やコンクリート。それを組み上げ作り上げていくたくさんの作業員さん。建物が出来上がってしまえば二度と見ることのできない、ワクワクする写真集です。

★『山をつくる』

東京チェーンソーズの挑戦

65

菅 聖子／文
小峰書店



日本の国土面積のうち森林が2/3を占めるといいます。東京チェーンソーズは、東京の山で木を育てる林業の会社です。虫は出るし、暑いし寒いし。だけど、社員の皆さんは生き生きと楽しそうに真剣に取り組んでいます。木を、森林を育てる仕事とはどのようなものなのでしょうか？



京都市向島図書館

伏見区向島二ノ丸町 151-35

☎ 075-622-7001



このQRコードは向島図書館のホームページのトップページにつながります

京都市向島図書館ホームページ

https://www2.kyotocitylib.jp/?page_id=352

(「ティーンズニュース」のコーナーをチェックしてね♪)

開館時間：月・木 9時30分～19時

水・金・土・日・祝日 9時30分～17時

休館日：火曜日(火曜日が祝日の場合は翌平日)

年末年始

★『マジカルチャプターブックガイド』
中学英語で読める海外児童書の世界

837

なか なかこ／著
経済界



洋書って読んでみたいけれど少しハードルが高いと思いませんか？ぜひこの本を開いてみてください。海外の子どもたちに親しまれているお話をベースに、英語で書かれたお話を読むコツが楽しく学べます。素敵な魔女があなたを海外文学の世界にいざなってくれますよ。

★『野菊の墓』[改版]

B11

伊藤 佐千夫／著
新潮社(新潮文庫刊)



みなさんの心の中に、過ぎ去った昔のことであるけれど大切だ、という記憶はありますか。この作品は、主人公である15歳の政夫と17歳の民子の純真な恋物語です。忘れられない過去の記憶として描かれた悲しくも美しい物語をぜひ読んでみてください。

teensコーナーに新しく入った本

★『14歳からの精神医学

心の病気って何だろう』[新版]

teen 493

宮田 雄吾／著
日本評論社



誰にでもなる可能性がある「心の病気」について、代表的な症例が物語調でわかりやすく書かれています。友だちや家族が心の病気になったらどうするべきか、また自分自身がその立場になったなら。多くの人に読んでいただきたい1冊です。

★『ぼくのまつり縫い』[1]

teen 913

神戸 遥真／著 井田 千秋／絵
偕成社



主人公の針宮優人は、実は手芸が得意。サッカー部をケガで休んでいる時に、ひよんなことから被服部の助っ人として頼られます。「男のくせに手芸が好きなんて…」と人目が気になる優人は好きなことを好きと言えない自分の気持ちと向き合います。

★『そこにいるのに』

ニタ

似鳥 鶏／著
河出書房新社



全13話で構成されたホラー短編集。日常に潜む「見てはいけない」「気づいてはいけない」ものたちがじわじわと忍び寄ってくるような恐ろしさを感じられる1冊。ゾッとする話が盛りだくさんなので、暑い日に読むと体感温度が下がるかも……？

★『おじいちゃんとの最後の旅』

933

ウルフ・スタルク／作
キティ・クローザ／絵 菱木 晃子／訳
徳間書店



おじいちゃんは、足をケガして以来、ずっと入院しています。おばあちゃんと暮らしていた島の家にもう一度だけ行きたいというので、病院を抜け出してひと晩だけの旅に出ます。ワクワクして切ない、おじいちゃんとおじいちゃんとの旅のお話です。